

文教協会報

No.678

(令和5年3月)

まなびの泉
心のかよあい
わくわく協働活動
ぬくもり
ふるさと・再見
声 こえ VOICE
～文教のまち 大垣～
ふるさと美術散歩③

今年度から「ふるさと大垣科」が変わりました！…………… 2
親子で楽しく学びやすい笑学校生活を！（安井小学校）… 3
変化する時代の中で大切にしたいもの（小野小学校）…… 3
ふるさとに誇りと愛着を持てる子を
学校と地域の協働活動 一之瀬地域の公民館活動…………… 4
教科等の指導におけるICTの効果的な活用…………… 5
大垣藩のお仲間制度…………… 6
大垣市観光ガイドの紹介…………… 7
2年ぶりに開催！わくわく算数アドベンチャー…………… 8
守屋多々志生誕110年 美術館に行こう！…………… 8



大垣市立江東小学校児童の作品

今年度から「ふるさと大垣科」が変わりました！

1 ふるさと大垣科について

平成27年に始まった「ふるさと大垣科」の学習も、今年度で8年目を迎えました。

今年度は「ふるさと大垣科」の学習の更なる充実を図るために、「テキストのデジタル化」を図り、これまで土曜授業を中心に行ってきた「ふるさと大垣科」の学習を「平日実施」にしました。

2 テキストのデジタル化について

児童生徒1人1台のタブレット端末で活用できるよう、「ふるさと大垣科」のテキストの改訂に併せてデジタル化し、より効率的に学ぶことができるようにしました。

デジタル化したことで、自分の読みたい記事を拡大し、写真や文を大きくして見るできるようになりました。また、校外学習に行くときにタブレット端末を持って行けば、デジタル化したテキストを見たり、写真や動画を取ったりすることがタブレット端末1台でできます。



デジタルテキストを閲覧する児童の様子

3 平日実施について

これまで土曜授業を中心に学習を行っていましたが、今年度より「平日実施」にしました。

以前は、毎月1回の土曜授業を中心に行っていたので、前回の授業から時間が経ち、児童生徒が学習内容を忘れてしまうということもありました。

そこで、平日にまとめて実施することで、児童生徒の学びが途切れることがなく、より深く、より効果的に学ぶことができるようにしました。

月	4	5	6	7	9
ふるさと大垣科	大垣ものつくり自衛隊資料から大垣市に製造業が盛んであることに気づき、企業誌や企業を調べて、大垣市の産業に興味・関心をもつ。	大垣ものつくり自衛隊資料から大垣市の産業について調べ、その産業について興味をもつ。	大垣ものつくり自衛隊資料から、その産業の発展について調べる。	大垣ものつくり自衛隊資料から大垣市の産業の発展状況や特徴、働く人の仕事に対する姿勢や思いを自分自身の考えとつらねて調べる。	大垣ものつくり自衛隊資料から大垣市の産業の発展状況や特徴、働く人の仕事に対する姿勢や思いを自分自身の考えとつらねて調べる。
家庭をまかせよう	家庭をまかせようの冊子を使って、単語を調べ、同じ言葉でも異なる意味を持つことを調べる。	家庭をまかせようの冊子を使って、単語を調べ、同じ言葉でも異なる意味を持つことを調べる。	家庭をまかせようの冊子を使って、単語を調べ、同じ言葉でも異なる意味を持つことを調べる。	家庭をまかせようの冊子を使って、単語を調べ、同じ言葉でも異なる意味を持つことを調べる。	家庭をまかせようの冊子を使って、単語を調べ、同じ言葉でも異なる意味を持つことを調べる。

表1 年間配列表（一部抜粋）

例えば、表1の年間配列表のように、大垣の産業に興味を持ち、大垣の企業について調べ、実際に講話を聴く。そして、そこから学んだことをまとめるという学習を4～9月にまとめて実施することができます。

このように、各学校で年間配列表を工夫して作成し、計画的にまとめて行うことができるようにし、児童生徒の学びが充実するようになりました。

4 ふるさと大垣科パネル展について

今年度も「ふるさと大垣科パネル展」を実施しました。中学校3年生が、これまで「ふるさと大垣科」で学習したことをもとに、大垣市未来ビジョン「未来のピース」の視点から、「〇年後の大垣市のまちづくりプラン」を提案したり、「今、中学生として大垣市のためにできること」について考えたりしたことをパネルにまとめました。



大垣市未来ビジョン「未来のピース」

今年度は、12月15日(木)～22日(木)にイオンモール大垣2階特別展示場と2月1日(水)～16日(木)に大垣市役所市民コミュニティスペースにて、展示しました。

期間中は、小中学生や保護者だけでなく、市民の方にも観ていただきました。

多くの方に展示を観ていただくことができました。ありがとうございました。

(学校教育課 林 のり子)



江並中学校のパネル



親子で楽しく学びやすい 笑学校生活を！

安井小学校 PTA会長 種田 昌克

安井小PTAでは、「親子で楽しく学びやすい笑学校生活を！」をスローガンにさまざまな活動に取り組んでいます。

【ブックオクロー（子どもたちに本を贈ろう）プロジェクト】

毎月、「ATBあいさつの日」を開催。子どもたちは、元気な声であいさつをしながら、アルミ缶（A）、テトラパック（T）、ベルマーク（B）、などの資源を持って登校します。それとは別に資源回収（年3回）も行っています。そのため、子どもたちが汗をかいた分だけ還元してあげられるように、収益金を本にして毎年100冊以上を贈っています。子どもたちも、一生懸命に取り組んでくれています。全国的にはベルマークも資源回収も廃止の傾向にあり、地味な活動かも知れませんが、子どもたちには頑張って集めた分だけ報われる喜びを感じてもらいたいと思っています。

【安井小PTA公式LINEアカウント】

今年から、LINEを使った情報発信を開始し、

ペーパーレスを推進しています。その結果、①紙文書配布による未達等防止、②印刷作業などPTA役員の負担軽減、③印刷費削減、④いつでもどこでもアクセス可能、⑤動画メッセージ配信や出欠フォームによる回答や確認もできるようになりました。現在約500人の会員にご利用いただいております。

【その他】

「Let's SDGs もったいないプロジェクト」では、体操服ほか学用品などのリサイクル譲渡、「米米CLUB」では地域の方と稲作体験、「トイレの神様プロジェクト」ではトイレ掃除&自分磨き、「世界の子どもにポリオワクチンを！活動」ではペットボトルキャップ集めなどを行っています。

今後も多くの会員に参加していただける活動を企画し、ワイワイ楽しい安井小PTAでありたいと思っています。



やすい笑学校PTA活動の様子

変化する時代の中で 大切にしたいもの

小野小学校 PTA会長 奥田 裕樹

小野小学校に今年もたくさんのホタルが舞いました。中庭にあるビオトープで、幻想的な光を明るく発しながら飛び交うホタルを見る子どもたちは、ホタルの光と同じように笑顔輝かせていました。

小野小学校のホタルの育成は、子どもたちだけで出来るものではなく、学校と地域が協力しながら、年間を通して実施しています。小野小学校PTAもビオトープの環境整備や水槽の設置などを行い、ホタルの育成に協力をしています。しかし、近年の新型コロナウイルス感染症の影響から、規模を縮小して活動しており、ホタルの育成に限らず、以前のような活動はできていません。

このような状況を踏まえ、今年度の小野小学校PTAでは、「時代の変化に対応できるPTAづくり」に重点を置き、子どもたちを取り巻く環境の変化に合わせたPTA活動を目指しています。活動としては、地域の方によるオンライン講座をはじめ、家庭や子どもたちにアンケートを実施し、子どもたちとのつながりを多くもつようにしています。また、子どもたちが、夜に

ホタルの鑑賞を安全にできるように見守りを行いました。

このように、ここ数年で子どもたちの生活は大きく変化し、PTAの活動も時代に合うように見直しをしています。ただ、PTAの活動内容は変わっても、子どもたちを想う気持ちに変わりはなく、ホタルを見る子どもたちの笑顔や元気に成長していく姿は、これからも変わらず大切にしていきたいものです。さらに、小野小学校は、本年度で創立150周年を迎え、教育や子どもたちの安全・安心な暮らしなどを地域とともに歩み育んできた長い歴史も大切にしていきたいの一つです。

今後も変化する時代の中で、その時の社会の流れに敏感に応えながら、地域や学校との絆を大切にして、子どもたちに寄り添うPTAであり続けたいと思います。



児童とともにホタルの幼虫を数える様子

ふるさとに誇りと愛着を 持てる子を

学校と地域の協働活動 一之瀬地域の公民館活動

一之瀬公民館は、地域の中心に小学校と並んで位置し、成人の生涯学習の推進、地域づくり、地域住民のつながりの拠点として活動を行っています。また、今日的課題の「地域学校協働活動」の推進を図りつつあります。

ここでは、コロナ禍の前と今年度実施した地域と学校が連携して行った事業を紹介します。

1 ホタルの里を守り、未来へつなごう

一之瀬地域では、毎年初夏に数箇所ではホタルを見ることができます。平成12年にホタル保存会が発足し、ホタルの保護活動やホタル祭りを実施してきました。ホタル祭りはバザーや小学校、保育園の歌や踊りの出し物、ゲスト出演による、吹奏楽や太鼓の演奏、ホタル観察会もあり、地域住民の楽しみな行事の一つです。

昨年は、感染予防のため中止しましたが、家族でホタル観察を行い、発生状況を記録するとともに俳句を募集しました。小学生から大人まで40句が寄せられ、ホタルの発生状況を地図に記入し、俳句とあわせて広報紙に掲載し、紹介しました。

このような活動を通して、多様な生物と共存できる環境を守り、未来へつないでいきたいと思えます。



ほたる俳句の発表

2 夏休み親子「いかだづくり・川くだり」

学校のすぐ西に牧田川が流れ、児童が河川の生き物調査や稚魚から育てたあまごの放流を行っています。夏休みものづくり体験で、地元の竹や木を生かし、川で遊ぼうと企画したのが、いかだ作りと川くだりです。

これまで、夏休み「ものづくり教室」では、地元の竹を利用して、水鉄砲、竹とんぼ、はしなどを作ったり、なすやきゅうりなどの野菜を食材として料理を作ったりしました。指導者は、地域の大人です。

今年のいかだ作りと川遊びでは、安全ないかだの作り方を調べ、材料の竹・木材・タイヤチューブ・ペットボトル・発泡スチロールなどを集めるとともに、協力者を募りました。いかだの試作と試乗をして、安全なことを確認。ライフジャケットも準備し、当日を迎えました。4家族とスタッフ約30人でいかだを作り始めました。試作品を参考に親子が協力しながら、スタッフの支援を受けて作っていきます。1時間半で4つのいかだが完成。川原へ運んで、いよいよ川くだり。大人が川に入り、安全な運行に備えます。それぞれのいかだに、子どもが2、3人ずつ乗り、川くだりを楽しみました。後日、一之瀬保育園児も、このいかだに乗って川下りを体験しました。



作ったいかだでの川くだり

令和6年4月に、4つの小学校・中学校が義務教育学校「上石津学園」になりますが、上石津をふるさととし、地域と学校が連携し、地域の自然や歴史・文化を生かした体験・活動を通して、地域に誇りと愛着をもった子に育てられることを願っています。

(一之瀬公民館長 三輪賢司)

ぬくもり

教科等の指導におけるICTの効果的な活用

1 はじめに

大垣市版「GIGAスクール構想」が始まり、各小・中学校での授業風景も変化が見られてきています。

今回は、ICTの活用が広まる中、効果的な授業の活用例を紹介します。

2 学習支援システム「ミライシード※1」を活用した授業の様子について

※1 株式会社ベネッセコーポレーションが開発したタブレット学習用ソフト

市内各小・中学校では、学習支援システム「ミライシード」を使った教科の授業が展開されています。本システムを利用することによる授業風景の変化の様子は以下のとおりです。

(1) 問題提示の利便性

活用前：問題の書かれたプリント等を事前に教師側で準備し、児童生徒一人一人に配付。大型モニター等で示した内容には一部の児童生徒に見えづらさがあった。
活用後：教師側で準備したデジタルデータやその場の児童生徒の様子を瞬時に配信し全員が手元で確認することが可能。



ミライシードでの問題提示

メリット：授業準備の短縮、プリント等の配付不要。

(2) ノートとICTの活用

活用前：自分の考えを書き、自分で分析。
活用後：ノートに書いた内容を撮影し、デジタルカードにして送信。さらに、仲間と共有することで自分の考えをより深める。



ICTの活用

メリット：自分の考えを整理・分析する時間の確保。デジタルデータの自動保存。

(3) 学び合いの内容の共有

活用前：一人一人の考えを発表する場面で、児童生徒の考えを意図的に黒板に書かせる。また、大型モニター等で提示する。
活用後：仲間の考えを一人一人のタブレット端末上で共有し、自分の考えをその場で深める。



個人やグループで共有する場面

メリット：手元で仲間の考えを瞬時に共有することで自然な対話が始まり、より深まりのある学習が展開できる。

3 おわりに

新しい時代を生き抜く児童生徒に求められる力は「探究する力」や「自ら学ぶ力」です。この資質を身に付けるためのキーワードは従来の教育でも大切にしてきた「対話」だと考えます。ICTをただ活用するのではなく、ICTによって自然な「対話」が生み出され、一人一人の考えの違いへの気付きや、よりよい考えを生み出すことで納得のいく学びが成立することを期待したいです。

(大垣市教育総合研究所：棚橋 直仁)

大垣藩のお仲間制度

KAGAYAKI SPOT

1 はじめに

大垣市は、「文教のまち大垣」といわれています。その礎になったのは、大垣藩戸田家初代藩主の戸田氏鉄をはじめ、7代藩主氏教、8代藩主氏庸など、歴代藩主による功績が大きいと思われています。特に氏庸の時期に設置された「学問所」（後に致道館、敬教堂と称す）は藩士の子弟の教育に大きく関与しました。また、大垣藩では、「お仲間」という独立した組織があり、藩士の子弟が共同で勉学や鍛錬を行っていました。



大垣藩校「敬教堂」跡（大垣市東外側町）

2 お仲間制度

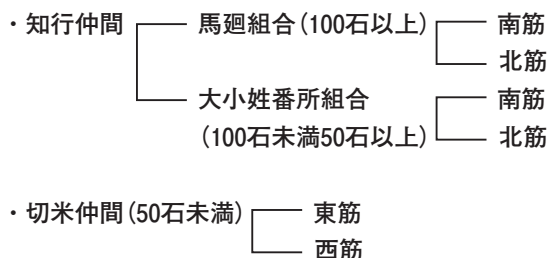
お仲間は、藩士の子弟からなる青少年の組織でした。創設時期不明ですが、実際は公の制度であったらしく、家老・番頭・年寄の組を除き、その他の子弟は、仲間入りするのが通例で、仲間外れ（除名）となるものは家督相続ができませんでした。また、「仲間」の権力は強く、「仲間」内で決めた処分に対しては、誰も不服を申し出ることはできず、一切役所の支配を受けない、強い権力のある独立した組織でした。

3 お仲間の種類

年齢により「大人仲間」と「子供仲間」がありました。また、石高によって「知行仲間」（50石以上）と「切米仲間」（50石未満）に分かれていました。「知行仲間」は、馬廻以上（100石以上）と、大小姓番所・詰番など（100石未満50石以上）との2つの組合にわかれ、また、南筋・北筋の2組あったので、知行仲間は計4組ありました。

切米仲間は、西筋と東筋の2組あったので、全部で合計6組の仲間がありました。

<お仲間の組分>



4 子供仲間

子供仲間は、9歳の冬から仮に入り、10歳の春から正式に仲間入りしました。組織は、古参を上席、新参を下席とし、最も上席のものは親玉と呼ばれました。これに次ぐ、上席3人を上四人と呼び、その組の事務一切を仕切りました。

活動内容は、武士としての教養や礼儀、心体の鍛錬を主とし、読会・夜話し・日遊び・水泳・納涼・競走・年中行事がありました。また、仲間内で輪を乱した者には、厳しい罰則があり、その判決と執行は上四人で協議しました。

5 大人仲間

15・16歳となり、元服すれば、子供仲間を引退し、大人仲間に入りました。年限は7年で、7年以内であれば、家督を継いでも、お城の使番にならない限り、仲間をやめることはなく、7年を過ぎれば引退しました。

活動内容は、主に集会・水泳と納涼・遠足がありました。風紀については、子供仲間よりも厳しく、その活動は、勉学よりも心体や武術の鍛錬に重きを置くものでした。

6 おわりに

大垣藩のお仲間制度に類するものは、他藩にも存在しました。その中で、大垣藩は独立した組織としてお仲間制度を設け、青少年の頃から共同で勉学や鍛錬を行っていました。

明治元年（1868）、戊辰戦争がはじまると、大垣藩は初め旧幕府軍、後に新政府軍として、各地で戦果をあげ、薩摩藩・長州藩・土佐藩につぐ、3万石の賞禄を受けました。

大垣藩士の強さは、このお仲間制度による鍛錬の賜物なのかもしれません。

（大垣市立図書館 歴史研究グループ 織田 光一）

大垣市観光ガイドの紹介

観光ボランティアガイド「ふるさと大垣案内の会」 子安 孝夫

1 はじめに

大垣市にお越しになったお客様や地域の方々に、大垣の文化・歴史および産業等をご案内し、市の発展に寄与することを目的に、平成11年「ふるさと大垣案内の会」が設立されました。ふるさと大垣科の小学5年生「水の都」見学を担当された先生方は、私たちの活動を理解くださっていると思います。



小学生へのガイド活動

2 大垣市の観光環境

私たちの住む大垣市は、日本のほぼ中央に位置し、古くは「東山道」「鎌倉街道」「中山道」「美濃路」が通り、現在は「東海道新幹線」「名神高速道路」「東海環状自動車道」が通る交通の要衝です。また、歴史的には「壬申の乱」「関ヶ原合戦」などに関係した地域であり、観光資源は豊富で交通の要衝と合わせ良い環境に恵まれています。

市経済部商工観光課の協力団体として「大垣観光協会」が、観光事業の実働部隊として、各種イベントの企画と開催などを担当されており、「城下町大垣観光マップ」をはじめとした、ガイド資料作成なども展開されています。このマップには、大垣の文化・歴史に関するスポット14か所が紹介されているのと、裏面には大垣城の歴史、芭蕉の「ミニ奥の細道」図が案内されており、私たちも重宝して使用しています。

私たちの会が推奨している観光コースは、

- ・大垣城と郷土館
- ・船町川湊と奥の細道むすびの地記念館
- ・ミニ奥の細道と八幡神社

等ですが、お客様のご要望に合わせ、旧市街をメインに湧水巡り・美濃路・赤坂地区の古墳群などと、墨俣・上石津に支部を設けて、幅広くガイド活動をしています。

3 当会の会則と活動

大半が現役を引退した人たちの集まりで、それなりの会則はありますが「大人の社会」として、いろいろな役割分担があります。活動面で観光ガイドは当然のことですが、会員の資質向上・親睦などを図るため、次の行事などを行っています。

- ・年に数回の定例会 → 専門家による講演・現地視察と、会員の情報交換会など
- ・年に2回、一般市民などを対象に歴史的話題などをテーマに「歴史観光講座」の開催
- ・夏には「納涼ランチ会」年末には「懇親忘年会」 → この3年間はコロナ禍で中止
- ・春、秋の研修旅行 → 当件もコロナ禍で中止
- ・地域の観光ガイドの交流を図る「西美濃観光ガイドの会」のリーダー役を担う

4 活動に関する悩みなど

素晴らしい「水の都大垣」ですが、「おすすめの食事は?」「温泉は?」「駐車場は?」などと聞かれると、返答に困るのが大きな悩みです。また、「飛び出せガイド」と張り切っていますが、会員の高齢化が進み、行動力も減退しつつあります。

5 観光ガイドでの心がけと喜び

この会に入会して3か月間の新人研修を受けた時と、その後の実践で学んだ心がけを列挙してみました。

- ・時間は絶対守ること
- ・質問に答えるとき、わからないことはハッキリ「わかりません」と言うこと
- ・お客様の来垣目的をしっかりと把握しておくこと
- ・下調べをしておくこと
- ・服装は会の規定に従うこと

こんな心がけでガイドしていますが、お別れするときに、「今日は楽しかった。」「また来たいが良い季節は?」とか、「声が素晴らしい。」などと言われると、疲れもどこかに飛んで行く気分になります。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。



～ 文教のまち 大垣 ～

2年ぶりに開催！わくわく算数アドベンチャー

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、これまで中止にしていた「わくわく算数アドベンチャー」を、今年度は2年ぶりに開催することができました。

「わくわく算数アドベンチャー」は、市内の小学校高学年児童を対象とし、授業で学んだ知識や技能を活用する場を設け、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさを味わえるようにすることで、算数への興味や学ぶ意欲をさらに高めていくことを目的として、年3回（6月、12月、1月）行っています。

岐阜大学教育学部数学科の山田雅博教授と学生の方に準備してもらった問題を、学生の方にもヒントをもらいながら、仲間と一緒に考えました。

6月には、8名の児童が参加し、くじの確率を調べたり、テーマパークのアトラクションの待ち時間を計算したりしました。

12月には、17名の児童が参加し、分数や小数の計算の仕組みが分かる領地ゲームをしたり、ジュースの糖度を計算したりする活動をしました。

これからも、児童が算数への興味を高めることができる活動を続けていきます。



12月のわくわく算数アドベンチャーの様子

(学校教育課 林 のり子)

ふるさと美術散歩③ 守屋多々志生誕110年 美術館に行こう！



《みだれ髪(与謝野晶子)》平成13年(2001) (大垣市蔵)

歌人と謝野晶子（明治11年（1878）～昭和17年（1942））の処女歌集『みだれ髪』（明治34年（1901）刊行）を題材に、恋する乙女・晶子を瑞々しく描いた作品です。

『みだれ髪』は、後に夫となる与謝野鉄幹への強い恋慕の感情を素直にそして大胆に詠み、刊行当時は賛否両論を呼んだ歌集です。「その子二十歳 櫛にながるる黒髪のおごりの春の 美しきかな」「黒髪の 千筋の髪のみだれ髪 かつ思い乱れ 思いみだるる」ほか数首から想を得

てこの作品は描かれています。

画面左手の赤く縁取られたランプと恋の矢を射るキューピッドは近代化の幕開けを感じさせます。満開の桜を前に、流れる黒髪の恋する少女は、はじらうように袂で顔を隠しています。少女の着物の裾は華やかに広がり平安の姫君を彷彿させます。『源氏物語』の現代語訳に精力的に取り組んだ晶子と紫式部を重ねているのでしょうか。

守屋の養母は日本女子大学で学び米国への留学も希望していましたが、結婚のために断念しています。守屋が15歳の時に亡くなった養母の最期の言葉は、「家業のことを考えず、好きな絵の道に進みなさい」というもので、守屋はこの言葉に後押しされ画家の道を目指しました。読書家の養母は『源氏物語』など古典の素養も深く、守屋の少年時代に大きく影響を与えています。晩年の守屋は、養母も生きた「明治の女性」を題材にまだまだ描きたいと語っていましたが、惜しくもこの作品が最期の院展発表作となっています。

企画展「王朝の美」

会期：令和5年3月18日(土)～5月14日(日)

美しい四季の花々や風景を描いた作品や華麗な王朝文学を題材に描いた作品を中心に展示します。

